



第8回 B：国際理解と国際協力

(1) 生活文化の多様性と国際理解

世界のさまざまな暮らしとは？

～言語・宗教と生活～

監修・講師
森田 浩司

学習のねらい

さまざまな言語・宗教の特徴について基本的な事柄を理解するとともに、宗教と人々の生活文化の関わりを知り、「世界のさまざまな価値観や多様性を認め尊重し、受け入れる寛容さ」を理解することが大切です。さらに、民族と言語の関わりについて理解し、公用語の役割や民族の共存をめぐる課題についても考察しましょう。

キーワード

言語／宗教／民族／公用語／少数民族／キリスト教／イスラーム／
仏教／ヒンドゥー教／ユダヤ教／世界宗教／民族宗教／ムスリム／
ラマダーン／ハラールフード／カースト制／ヴァルナ／ジャーティ／
ヒンディー語／BRICS／インドのICT産業／多様性

生活文化の多様性

世界のさまざまな生活文化において多様性がみられる要因の一つとして、宗教があげられます。特に宗教は、人々の生活の中の服装や食べ物などにも影響を与えています。

例えば、ムスリムの伝統的な女性の服装もその一つです。サウジアラビアでは、目と手足の先以外のすべてをアバヤとよばれる黒色の長いローブでおおって外出します。イランでは、チャドルとよばれる半円形の布を身につけて、顔だけを出して外出する女性が多く、トルコでは、色とりどりの服装がみられ、多くの女性はスカーフのような布で頭髪を隠しています。

宗教が食生活に与えている影響としては、ハラールフードがその一つです。ムスリムはイスラームの教えで許されている事象を反映した食べ物（ハラールフード）を食べます。豚やアルコールを使用していないことはもちろん、製造過程でイスラームの規範にのっとっている食品にはハラール認証がつけられることが多くなりました。そのため、多数のムスリムが住んでいる国や地域のスーパーマーケットなどでは、多くのハラールフードがおかれています。

世界の宗教と生活

世界中に布教を通して信者数を拡大させ、多くの地域・民族に広まっている宗教を世界宗教とよび、ある地域の文化形成の過程で生まれ、特定の地域や民族に結びついた宗教を民族宗教とよぶことがあります。

民族宗教には固有の地域差があり、世界宗教においてもいくつかのグループに分けることができます。そのため、日常生活や社会制度への影響の度合いが地域によって異なります。だからこそ、各地域の宗教的背景を個別に理解するとともに、人々の生活が宗教からどのように影響を受けているのかを知る必要があります。

イスラームはアッラーを信仰する人々（ムスリム）の間で広がっています。特にイスラームは生活上の戒律をはじめとして、日常生活を含めて強い影響力がありますが、その度合いは国家による宗教の位置づけによって異なります。憲法そのものをイスラーム法におくサウジアラビアなどに比べて、政教分離をとるトルコなどではイスラームの影響がやや穏やかなのはそのためです。

言語、宗教をめぐる問題と共生

世界のほとんどの国は、国内に多様な言語集団を抱えています。多くの場合、そのうちの特定の言語を公的な場で使用することを認めた公用語として選定しています。ベルギーやカナダのように、複数の言語集団のうち、特定の言語のみを公用語にすると紛争や分離運動が生じる可能性がある場合には、複数の公用語を指定しています。

インドでは連邦公用語としてヒンディー語が位置づけられていますが、英語が共通語としての役割を果たしている場合があります。それ以外にも憲法によって文化・教育面での使用が奨励されている指定言語もあります。この指定言語には、22言語が位置づけられていて、このような多言語使用の状態を反映して、インドの紙幣にはヒンディー語と英語に加え、15の指定言語によって金額が表記されています。ただ、22の指定言語すべてが表記されているわけではない点には注意したいです。